

研究課題名	慢性肝疾患におけるバイオマーカー探索研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科 消化器・代謝内科学 准教授 相方 浩
研究期間	2021年12月9日(倫理委員会承認後)～ 2026年10月31日
対象者	<p>2000年1月以降に、広島大学病院消化器・代謝内科学で慢性肝疾患と診断され、検査・治療を受けられ、E-830「慢性肝疾患、肝癌の肝組織の研究のためのデータベース登録」およびE疫-726「消化器疾患研究のためのデータベース登録」に同意を得られた患者さん。</p>
意義・目的	<p>慢性肝疾患は、肝硬変や肝癌の原因になることが知られています。肝硬変が高度に進展すると、肝移植以外に根本的な治療がないのが現状です。また、肝臓癌は再発率も高く、予後不良な癌の一つとして知られています。以下の3点が可能になれば、慢性肝疾患を背景とした患者様の予後改善に大きく寄与できるものと考えます。①将来的な肝硬変や発癌の進行を予測し、高リスクな場合は予防的治療介入を行う、②癌を可能な限り早期に発見する、③癌の中でも特に再発リスクの高いものを予測し追加治療を行う。</p> <p>しかしながら、これらを予想・発見するためのバイオマーカーは確立されていないのが現状です。そのため、今回、慢性肝疾患の患者様の、検査または治療の際に採取された組織や血清を網羅的に解析し、上記①～③を実現するためのバイオマーカーの探索を行うため、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は以下の通りです：年齢、性別、血液検査(GOT、GPT、LDH、<math>\gamma</math>GTP、HbA1c、AFP、DCP、Alb、Bil、T-chol、LDL-C、HDL-C、TG、M2BPGi、血算)、画像所見(US、CT、MRI)、病理所見、発癌の有無、抗癌剤投与の有無およびその治療効果、生命予後)。</p> <p>また、本研究では、検査または治療の際に採取された組織や血清の一部を使用し、遺伝子発現や蛋白などの定量を行います。遺伝子の変異解析は行いません。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	一部試料を University of Texas Southwestern Medical Center (研究責任者 星田 有人) に送り、解析を行います。個人が特定される情報は提供しません。
試料・情報の管理責任者	広島大学 准教授 相方 浩
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5191

広島大学病院消化器・代謝内科 職名 助教 大野 敦司

研究機関：広島大学